

企業を元気に、情熱系経営マガジン

「継ぐ」極意

堅実な経営を踏襲しながら
間口をさらに広げて

有限会社南口工業
南口 幸次さん

堺のイチオシ

機械製作の高い技術力で
自社製品の開発へ

株式会社堺精機工業所

SAKAIの傑作

選ぶ楽しさを届けたい
全19色のパーエンド

ポッシュフェイス株式会社

SPECIAL FEATURE

積極的なデジタル化で DXを推進し 経営に変革を起こす

シャープ化学工業株式会社／株式会社テクノタイヨー

クラウドサービスを軸にしたDX推進 情報を一元化 生産効率も大幅に向上

シャープ化学工業株式会社
代表取締役社長 村上 幹男

今年9月にはデジタル庁が創設されるなど、国を挙げてDX(デジタル・トランスフォーメーション)の推進を図っています。DXがかつて叫ばれたIT化と異なるのは、デジタル化が目的ではなく、変革のための手段であるという点でしょう。堺市産業振興センターの支援を受けDXの推進による変革を進めている2社をご紹介します。

.....

**企業向けクラウドサービスで
セキュリティ面も安心**

建築や土木、住宅向けのシーリング材やコーキング材、電子材料用接着剤などの製造販売で豊富な実績を誇り、それを充填する装置までも独自に開発しているシャープ化学工業株式会社。シーリング材は、多様なカラーリングのニーズに応じて、業界最多の70色の色揃えをしている上に、コンピュータによる調色で特注生産も行っています。

同社では2019年度に、スマートものづくり導入支援を受けて製造現場にIoT機器を整備するなど、すでにデジタル技術の活用を進めています。昨年度は堺市の「DX促進補助金」などを利用し、全社ですべての情報、コミュニケーションを一元化できるクラウド型グループウェアサービスと、営業支援システム



を導入しました。

村上幹男社長は「これまでもオンラインプレミス、クラウド問わずさまざまなサービスを個別に利用していましたが、情報が分散したり、セキュリティ上の問題があったりしました。今回のクラウド型グループウェアサービスの導入で、生産計画や出来高管理などの情報を、管理者をはじめ担当者全員が同時に確認できるようになったほか、何よりハッカーの侵入などの心配もなくなりました。インターネット空間で会社の信用の元となるドメインもこのサービス内

で管理し、全社員にアカウントを割り当てたので、万一の災害など緊急時もすぐに連絡が取れます。不審な口グインにはアラーム通知があるなど技術情報の漏洩防止にも有効で、コンプライアンスの強化にもつながったといえるでしょう」と語っています。

**商談プロセスの一元管理で
高付加価値な案件の選択も**

DX導入による具体的なメリットについて、西平雅則営業本部長は「まず製造現場においては、昨年まで作業



クラウドサービスにアップされている作業手順書などはいつでも、どこでも手元のタブレットで入手できる。



営業管理ツールによって、すべての案件の進捗状況を共有できる。



今年5月に新発売された次世代型シーリング材「ドライサラ」。従来品の約2～3倍の約20年という高耐候性を発揮するほか、スズ触媒を含まないメタルフリーを実現している。

シャープ化学工業株式会社

代表者名/代表取締役社長 村上 幹男
 本社/堺市西区築港浜寺西町12-1
 TEL/072-268-0321
 設立/1960年創業 1965年設立
 資本金/9,200万円
 従業員数/48名
 事業内容/シーリング材・コーキング材・接着剤の製造販売、工事関連商品の仕入れ販売、輸出入



シャープ化学工業(株)ホームページ



成功のポイント / クラウドサービスの導入を経営の効率化だけでなく、従業員の幸福度向上に結び付けようとの社長の強い思いが、従業員の一体感も醸成、レスポンスのスピードアップや短納期化に結び付き案件数の増加につながっています。

日報や作業手順書などは全て紙ベースで、作業に入るたびにファイルを取りに行くといったことが行われていたのが、現在は手元のタブレットで全ての情報をクラウドから入手できますし、記入した日報も瞬時に共有できます。例えば、情報を改訂しても、紙だと作業者の手元に古いものが残っていたりしましたが、クラウドから引き出す情報は常に最新のものなので、そうした心配もなくなりました」と語っています。

営業面でも同様のメリットが挙げられます。これまで会社に戻ってから日報などを入力し直していた商談の内容をその場で入力し、帰社前に会社に送信することができるようになりました。特に、開発案件を受けた時には、その情報をすぐさま社内の技術スタッフと共有できることでレスポンスのスピードアップにつながっています。

DX導入に重要な経営者の強いリーダーシップ

昨年からの新型コロナウイルス感

染症対策のためにオンラインでの会議や商談が中心となり、デジタル化とあわせて営業にかける時間とコストが大幅に削減されたこと西平営業本部長。「営業経費で言えば、前年比90%減で驚いています。車で営業に回れば、1日に数社が限界で、しかも往復の高送料金だけでも大きな経費がかかりますが、オンラインで十分に商談も打合せもできることがわかり、無駄に時間や費用をかけることがなくなりました。今では社員がみんな、無駄の排除を意識を向けるようになったこともDX導入の大きな成果です」と語っています。

クラウドサービスの導入にあたっては、社内のどこにいても利用できるようなネット環境の整備が必要でした。しかし、そうしたハード面の整備よりも大きなネックになったのは「人によるメンタルバリアだった」と

村上社長。新しいスタイルへの変革に戸惑ったり、疑問を持ったりする従業員もいました。「それでも社長が自らDX導入の目的とメリットを明確に説明したうえで、必ずやり遂げるんだという強い意志を示したことで遂行できました」と西平営業本部長が語るように、大きな変化をとまなうDXの導入には経営者の強いリーダーシップが重要なようです。

「DXの導入によって案件数の増加と、納品までのスピードアップ、さらには事業の高付加価値化が図られたと考えています。それがひいては残業時間の低減や、給与や賞与に反映できれば、働き方改革にもつながることです」と村上社長。DXの成否が、経営の変革とともに、従業員の幸福度向上の鍵をも握っていると

魅力的な企業ホームページやweb動画の活用で販路を大きく拡大

株式会社テクノタイヨー
代表取締役社長 水野 敏雄
専務取締役 水野 由夫

ものづくりの理念や実績を魅力的に訴求した新ホームページを公開

アルミやチタンなどの金属の精密加工から、自動機・省力機械の製造・設計、組立まで幅広く対応できる高い技術力を礎に、さまざまなアイデアやソリューションの解決を製品というカタチにしてきた株式会社テクノタイヨー。自社でも独自にオリジナルバーやゴニオメーターといった製品を生み出してきました。

同社では昨年度に、堺市の「DX促進補助金」を受け、企業ホームページの刷新や動画コンテンツの活用といった「営業のデジタル化」を進めています。取り組みのきっかけについては、推進責任者の水野由夫専務（写真左）は「これまでのホームページは求人活動を意識した作りになっており、当社が活気のある働きやすい会社であることの訴求に重きを置いていました。DX導入支援を受けられるのを機会に企業ホームページを一新し、自社の技術力をアピールし、ブランディングを図ることで、新規顧客の獲得に向けた営業力を強化しようということになったのです」と語っています。

今年3月に公開されたばかりの新ホームページでは、同社のものづくりの基本的な姿勢を「経営理念」や「社訓」としてトップページで訴求しているほか、コーポレートスローガンに

掲げる「発想をカタチに」の3つのソリューション事業についてもそれぞれ、具体的なプロセスや実績などがわかりやすく紹介されており、安心感のあるものとなっています。

「ホームページのリニューアルにあたっては、外部の制作スタッフと当社の経営幹部が何度か会合を重ねて当社の事業コンセプトの掘り起こしを行ったほか、当社がどういったソリューションを提供できるかを制作サイドに伝えました。その結果、私たちが大切にしてきた経営理念や社訓の3つどころが実際のものづ

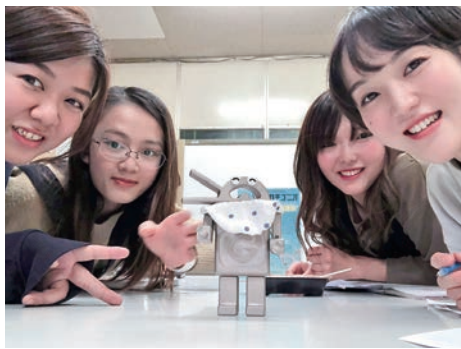
くりとにかくに反映されているのが見えるものになったと思います。これらの作業の過程で、経営理念や社訓をいかに製品にのせてお客様にお届けするか、その道筋が見えたことも一つの大きな成果でした」と水野専務は語っています。

目的は「デジタル化」ではなく「トランスフォーメーション」

同社では一昨年に、女性社員たちによるSNSチームを発足。フェイスブックなどのSNSを活用してき



撮影した画像で寸法を確認する「画像測定機」。厳密な品質管理が行われている。



オリジナルキャラクターの「カチ ゴニ男」くんとともに活躍中のSNSチームのみなさん。



トレーニングマシンなど幅広い用途で採用されているオイルダンパー（上2点）と、大学と共同開発されたカチカチゴニオ。片手で簡単に、しかも正確に計測できるというので高い評価を得ている。

株式会社テクノタイヨ

代表者名／代表取締役社長 水野 敏雄
 本社工場／堺市東区石原町1-153
 TEL／072-255-9559
 設立／1983年
 資本金／1,000万円
 従業員数／48名
 事業内容／ダイカスト・ロストワックス・MIMの鋳造から加工まで、マシニング加工、各種金属の切削加工、機構ユニット・電装ユニットの組立加工、オイルダンパーの開発・製造、オリジナル製品の開発・製造・組立



YouTube
公式チャンネル



（株）テクノタイヨ
ホームページ



成功のポイント／ 同社は、求人活動を意識したホームページから、自社の経営姿勢や技術力をアピールしブランディングの強化を図ったものにリニューアルすることで、飛び込みでは営業できないような大手企業からの引き合いも獲得できています。

ましたが、新ホームページの公開と同じ今年3月には、web動画の公式チャンネルも開設しています。まずは外部の制作スタッフにシナリオの書き方などのノウハウを学びながら2本の動画を制作。今後はその経験を活かしてチームで制作、公開していく予定です。

「この2回はカチカチゴニオメーカーとオイルダンパーを紹介しましたが、これからは当社の加工技術の紹介なども行っていきたいと考えています」と水野専務。こうしたSNSの発信によって、社内に向けても価値観や理念の共有化が図れるほか、営業では自社の強みをアピールするツールになると「営業のデジタル化」への期待を語っています。

さらに、水野専務が主張するのは、DXの導入で重要なのは、デジタル化よりも、トランスフォーメーション

「なのだということでした。つまり、外に向けての見せ方をバージョンアップしたのと同時に、本来のものがくりにの変革もやっていかなければ意味がないということも語っており、今後の課題として生産現場の「デジタル化」を挙げています。

「今年度は堺市産業振興センターの中小企業デジタル化・自動化促進支援を受け、生産管理や工具の管理、検査における測定値のデータベース化など製造現場のデジタル化を進めていく予定です。直接、利益を生み出さないとところですが、そこをこそ合理化しなければ、競争力を強化できないと思うからです」。

人材育成という課題があるもデジタルによって広がる可能性

中小企業がDXを推進する上で留意すべき点について、水野敏雄社長（写真右）は「いかに良いシステムでも、実際に運用する生産管理者が理解できなかったり、現場に馴染まなかったりするのなら意味がない。今回、社内でも最もITリテラシーの高い専務にDXの推進を担ってもらいましたが、彼には新製品の開発という重要な役割があり、今後は社内ですシステムを運用する人材の育成が急務です」と語っています。

一方、DXを導入するメリットとして「飛び込み営業をしても門前払いをされそうな大手企業数社から、当社のホームページを見て打診がありました。加工技術の実際を動画で見せることで、安心感も得やすいと思います。また、このたびのコロナ禍で、デジタル技術を駆使すれば、商圏は広がられることを実感しています。今後は当社のオフィスのあるベトナム

を皮切りに、医療機器のニーズの高い北米、ヨーロッパへと販路を拡大させたいと考えています」と水野社長。

さらに、自社製品を直接販売するD to Cも積極的に展開する計画です。「釣りやキャンプなどのこだわりの道具を、クラウドファンディングサービスを介して応援購入してくれる方たちとともに作っていききたい。手始めにソロキャンプ用の鉄板を製作・販売しましたが、若い社員のモチベーションも上がりました。また、ゴニオメーカーの例のように、不便だと思いつつも使い続けている道具がさまざまな業界にあるように思います。他業界とのコラボレーションで、困りごとを解決するものづくりを進められれば」と水野社長。さらなるDXの推進によって実現したいのは、「ものづくりの魅力、喜びを再び取り戻したい」という願いのようです。

機械なら製作から修理・改造まで 守備範囲の広さが強み

1963年に旋盤1台で金属加工業を創業してから約60年。株式会社堺精機工業所は、旋盤や工作機械の修理・改造から専用加工機や加工用治工具類、各種検査機の製作など、長年にわたり技術力とノウハウを培い、今では一般産業機械の設計から製作、電気制御までを一貫して担っています。「どのような相談事も断らず挑戦してきた結果、守備範囲が広がってきた」と中西誠吏社長。とりわけ同社の強みといえるのは、熟練の職人によるオーバーホールなどの修理や改造で、「機械の駆け込み寺」として信頼を得ています。

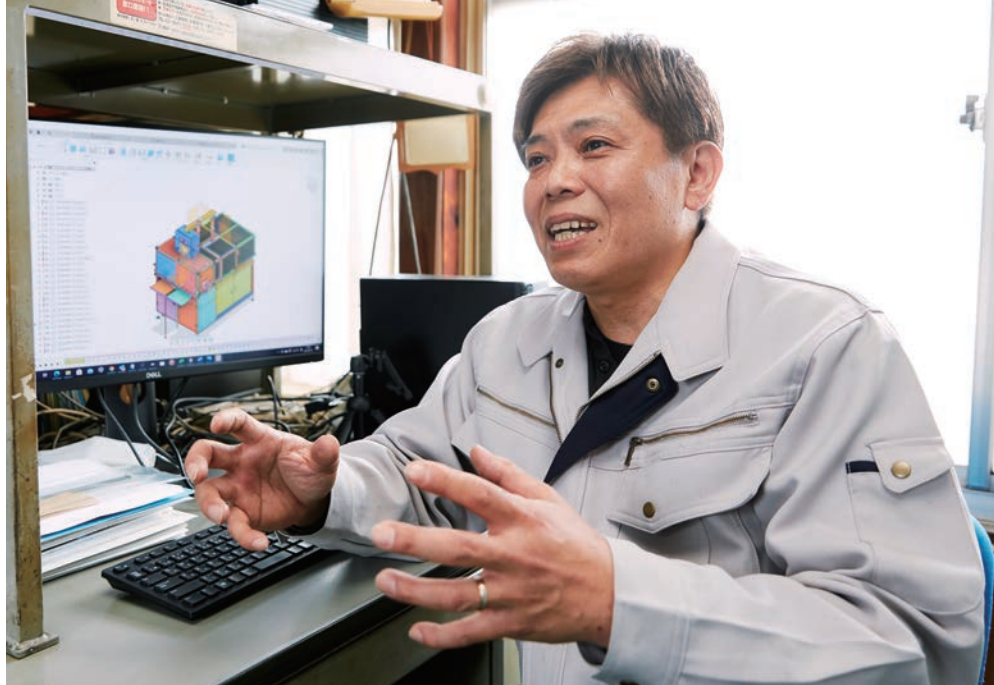
中西社長は「景気の良い時は新設機械の発注があり、景気の悪い時には修理や改造の注文が増えるので、景気にあまり左右されないのも当社の強みといえます」と語っています。とはいっても、受注を待つばかりでは経営が安定しないと、自社が持つ技術を活かして自社製品を開発する構想を抱いていたところ、このコロナ禍に、換気状態を表示する「CO₂センシングポール[®]」(実用新案取得済)の開発に携わることになりました。

換気状態の見える化システムを コロナ禍に共同開発

「センサでCO₂濃度を測定する研究をされていた大学の先生が、換気状態の見える化システムを開発しようと小回りの利く機械メーカーを捜されていることを当社と取引のある販売会社から紹介されました。それが昨年7月のことです」。それからわずか3ヶ月後に試作品を完成させ、実証



金属加工や組立はもちろん、設計、電気制御と多彩な技術とノウハウを有する職人たちが強み。



「これからは完成図のわかっているジグソーパズル型ではなく、自由な発想で創るレゴ型の教育が必要だと考えています。当社もレゴ型人間の集団として活躍できれば」と語る中西社長。

実験で効果の検証を経て、換気状態の悪くなる冬季に間に合わせるよう12月に発売開始しています。

コストを抑えるため、センサなどの部材の選定から部品の設計・製作にいたるまでを自社内で進めましたが、苦労したのはマイコン技術だったとか。「当社の電気担当が回路設計と基盤製作を担い、以前に勤めていた会社でソフトウェアの開発を経験している私がプログラムを担当しました」。最終的にデザイン性や安全性なども考慮して完成された製品は多くのメディアに取り上げられ、銀行やオフィス、病院、飲食店などに納入されています。

自社製品の開発で 安定したものづくり企業へ

「CO₂センシングポール[®]」の開発に携わったことで、自社が持っていた潜在的な技術の掘り起こしができたほか、一般消費者に販売するため

に必要な仕様書作りなどのノウハウも獲得でき、自社製品を開発、販売するまでの流れを学ぶことができた中西社長。今後は安定したものづくり企業を目指して、これまで縁のなかった医療・福祉業界や食品業界などへの進出も視野に、自社製品の開発に取り組んでいきたいと語っています。

活用した事業メニュー

■ビジネスマッチング事業

堺市産業振興センターからさまざまな企業が紹介され、大きなお得意先になっている企業もあります。

■医工連携促進事業

将来的に関心のある医療業界の情報入手やネットワークづくりに役立っています。

■各種人材育成セミナー

講習会に社員を派遣したほか、近畿職業能力開発大学校へ後継者を進学させることにもつながりました。



「CO₂センシングポール[®]」は、積層点灯型とフルカラー型の2種。近々、新デザイン(写真右)も発売予定。

株式会社堺精機工業所

代表者名/代表取締役社長 中西誠吏
本社/堺市美原区平尾2648-1
TEL/072-361-6493
設立/1958年創業 1968年設立
資本金/1,000万円
従業員数/3名
事業内容/各種一般産業機械、治工具類の設計製作・改造・修理(オーバーホール)



堺精機工業所
ホームページ



機械製作の高い技術力で
自社製品の開発へ

さかいSDGs推進プラットフォーム会員募集



会費無料



募集対象：SDGs達成に取り組む意欲を持つ企業、団体、教育機関

※所在地の市内外は問いません。支店・工場などの事業所単位でもご入会いただけます。

こんなことができます～プラットフォームをフル活用しよう～

今日から始めるSDGsアクション

本プラットフォーム会員になることで他の会員との情報共有や交流が生まれる等、会員になること自体SDGsの取組となります

会員同士の交流

- ・企業・大学・NPO法人等の「交流会」を通じたつながりやチャンスが広がります
- ・SDGsに関する勉強会に参加できます

情報共有・発信

- ・会員が実施するイベント情報をお知らせします
- ・市のホームページで会員の取り組みを紹介いたします

会員お申込方法

右記QRコードを読み取り、申込フォームからご登録ください。

お申込はこちら

堺市電子申請サービス



メールでのお申込み方法

①名称、②業種、③所在地、④URL、⑤担当者氏名、⑥電話番号、⑦メールアドレス、⑧SDGsについて今後取り組みたいこと（必須・50字程度）、⑨SDGsについて現在取り組んでいること（任意・150字程度）を記載の上、keikaku@city.sakai.lg.jpまで送信してください。お送りいただいた内容についてはホームページ上で公開させていただきます。

SDGsに関するご相談・お問い合わせについては、こちらの専用ダイヤルにてお受けいたします。

さかいSDGs推進プラットフォーム専用ダイヤル：072-340-2179（受付時間：月～金 9:00～17:30）

（堺市 市長公室 政策企画部 SDGs推進チーム）

①中小企業デジタル化・自動化促進支援事業（IPCスマートものづくり導入支援センター）

デジタル技術や自動化技術を活用し、既存事業の新たな価値創造や新規ビジネスの立ち上げ、経営にかかる各業務効率化を考えている堺市内の中小企業等向けに、Web窓口相談やオンラインまたは現地でのコンサルティング支援を行います。必要に応じシステムを提供するベンダー企業（主に堺市の企業）をご紹介しますと共に、各種補助金活用のアドバイスも行います。

（堺市デジタル化促進補助金の申請には、IPCスマートものづくり導入支援センターによる支援を受けることが必要です。）

- ・センターホームページからお申込みください。

<https://www.sakai-ipc.jp/bizsupport/management/ipc.html>



- ・堺市デジタル化促進補助金の詳細は、下記アドレスをご覧ください。

<https://www.city.sakai.lg.jp/sangyo/shienyuushi/chusho/busexp/digitalka.html>



②エキスパート派遣による経営力向上支援事業

経営、労務、マーケティング、会計、デザインなど、中小企業の皆様が直面する様々な経営上の課題解決や経営力向上のため、中小企業診断士等、多彩な分野のエキスパートの中から、事前ヒアリングに基づき、最適なエキスパートを派遣します。

【実施事例】

- ・自社商品開発のためのマーケティング計画を作りたい
- ・生産現場の改善活動に対するアドバイスを受けたい
- ・現在の経営環境に即した経営計画策定の支援を受けたい 等

【負担金等】

- ・訪問1回当たり10,000円（税込）事前ヒアリング・支援提案は無料
 - ・センターホームページからお申込みください。
- <https://www.sakai-ipc.jp/bizsupport/management/specialist/>



③堺ものづくり中小企業PR事業「製品技術ガイドブック」が便利な検索機能で探しやすくなりました。

堺市内のすぐれた技術・サービスを持つ企業の情報をセンターホームページに掲載しています。提携先やお取引先をお探しの際に、お役に立つ企業情報を掲載していますので是非ともご活用ください。

https://www.sakai-ipc.jp/bizsupport/management/business_matching/pr.html



上記①～③のお問合せ先 公益財団法人堺市産業振興センター 経営支援課
TEL 072-255-6700/FAX 072-255-1185/Email keiei_shien@sakai-ipc.jp

堺市産業振興センター保証付き融資(有担保)のご案内

堺市産業振興センターでは、当センターが債務保証を行う、資金使途に応じた融資制度(有担保)をご用意しております。

- ・堺市中小企業活力強化資金(設備資金向け)
- ・堺市経営安定特別資金(運転資金向け)

貸付利率：**1.0% ~ 1.4%** (固定金利)

保証料率：**0.5%・0.7%** (特別料率)

※設備資金・事業承継資金として利用される場合は保証料率が、**全額堺市負担(お客様負担ゼロ)**となります。

※上記の他、創業者向けの融資制度もございます。詳しくは、堺市のホームページをご覧になるか、取扱金融機関や堺市産業振興センターまでお問合せください。

お問合せ先

公益財団法人堺市産業振興センター 金融支援課 〒591-8025 堺市北区長曾根町183-5

TEL 072-255-8484 / FAX 072-255-5162 / (融資お客様専用フリーダイヤル) 0120-072-232

堺市HPアドレス: <http://www.city.sakai.lg.jp/> から「堺市中小企業融資制度」で検索してください。

貸会場のご案内「イベントホール・セミナー室・会議室」

イベントホールをはじめ、コンベンションホール、大会議室、セミナー室、小ホールなど、幅広く対応可能な14会場をご用意しています。会議、研修会、講演会、展示会、パーティなど様々な用途でご利用いただけます。空き状況はインターネット上(堺市施設予約システム)でご確認いただくか、お電話でお問い合わせください。

昨年、イベントホールにおいて照明器具のLED化、壁や天井の塗り替え等を行いましたので、以前より明るい印象のホールになりました。ぜひご利用ください。

【利用時間】 9:00~21:00

【休館日】 年末年始(12月29日~翌年1月3日)

【駐車場】 約230台(無料)

【最寄り駅】 中百舌鳥(なかもず) 駅から約300m

堺市産業振興センター 貸会場お問い合わせ先

TEL 072-255-0111

ホームページ <https://www.sakai-ipc.jp/>



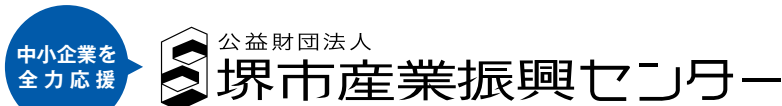
イベントホール (展示会形式)



セミナー室3 (スクール形式)



ミーティングルーム (会議形式)

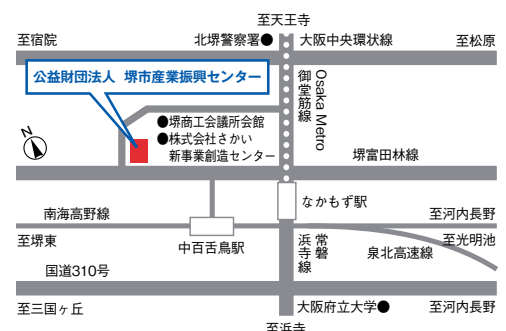


堺市産業振興センターでは、経営相談や技術開発支援、各種セミナーなど研修に関する事業、堺市内中小企業に対する融資関連事業、地場産業の紹介・製品展示・販路開拓に関する事業、情報誌やホームページ・メールマガジンなどによる産業情報発信、イベントホールや会議室などの貸出事業と多種多様なサービスでビジネスをサポートしています。

〒591-8025 堺市北区長曾根町183-5

TEL.072-255-3311(代) FAX.072-255-5200

<https://www.sakai-ipc.jp/>



●南海高野線中百舌鳥駅より約300m ●Osaka Metro中百舌鳥線中百舌鳥駅より約300m ※駐車場は、隣接の来客用駐車場(無料)がございますが、できるだけ電車・バスなどの公共交通機関をご利用ください。

継ぐ 極意

さまざまな事業継承の
有り様をご紹介します

堅実な経営を踏襲しながら 間口をさらに広げて

代表取締役 **南口 幸次**さん (写真右)



(南口 幸次 代表取締役)

(南口 繁 会長)

有限会社南口工業

堺市堺区南旅籠町西3-6-3 TEL.072-238-3406

代表者名/代表取締役 南口幸次
設立/1969年創業 1990年設立
資本金/300万円
従業員数/5名
事業内容/各種設計製作据付工事、
一般製缶加工、配管工事、各種溶接



南口工業
ホームページ

1969年に南口繁会長が創業。溶接加工については、溶接技能講習会で技術指導を行う程の高い技術力を誇っている。研究熱心な南口会長によって独自に開発したMY式水浄化装置や雑草抑制砂を自社製品として製造・販売している。



高

校を卒業したばかりの1996年に南口工業に入社したという南口幸次社長。長男である兄は中学時代に家業を継がないことを宣言しており、南口社長自身も承継すると思っていなかったと言います。「入社までもなく、先代からも『お前に継がせる気はない』と言われましたから、仕事を覚えたら出るつもりでした」。

しかし一方で、先代が南口社長に教えたのは、何でもこなせるオールマイティな職人になれ、ということでした。そこで自社の技術だけではできない工事を落札した時には、応援を頼んだ会社の手伝いをしながらさまざまな技術を習得していったのだとか。「社長に就任してからわかったことなんですが、経営者になると工事に関係することは一通り知っている必要があったんです」。おかげで今では、どんなことでも南口工業に相談すれば何とか対応してくれると同社の強みになっています。

南口社長が経営を承継して10年。先代の、現金払いの案件しか受けない代わりに、支払いも現金という堅実な決済方法は、新規の取引先からの信頼も得やすいと踏襲しながら、支払い期日を月末締め、翌月払いに変更しました。それにより、銀行からの借入金金を6年で完済させています。

「工事を主導できるよう工法などを積極的に提案するほか、同じ料金でよりレベルの高い仕事を納めることで、得意先にとってのコストパフォーマンスをアピールしたい」と南口社長。実際に納めた案件が評価されて次にも声を掛けられることが少なくないといいます。今後は、ひとり親方から脱却し、職人を増やすことで会社のパイを広げていきたいと抱負を語っています。



堺のものづくりから生まれた逸品

SAKAIの傑作

選ぶ楽しさを届けたい 全19色のバーエンド

ブルーベリーやライムグリーンなど、まるでキャンディーのように鮮やかな19色で展開される「ウルトラヘビーバーエンド」。

バイクに親しむ人々には、愛車の車体の色とコーディネートをしてウエアを選ぶことも楽しみの一つであり、バーエンドでもそうした楽しさを提供したいと、発色が良く色のバリエーションも豊富なアルミで製作されています。エンジンからの振動を抑えるためのおもりをアウターカバーの中に仕込む徹底ぶりです。

自社工場生産の品質の高さに定評のあるポッシュフェイスの製品ですが、なかでもバーエンドが人気を博しているのは、こうしたデザイン性へのこだわりがユーザーに支持されているのでしょう。

同社ではアルミ材を使った製品が多いということですが、「ウルトラヘビーバーエンド」の開発にあたっては、製品の発色を安定させるためにアルミの加工方法などで試行錯誤されたとか。アルミ材質や染料材料の選定などで専門業者の協力を得て実現できたと角野豊社長。「コロナ禍で再びバイクの魅力が注目されているなか、世代を問わず、初めてバイクを所有された方にも乗る楽しみ、所有する楽しみをお届けできる製品を作り続けていきたいですね」と語っています。



ポッシュフェイス株式会社

自動二輪用カスタムパーツを製造し、「MOTO POSH」などのブランドを多く展開しているポッシュフェイス株式会社。最新鋭マシニングセンターなどの設備を備えた内製工場を運営しており、そこで生産される高精度、高品質な製品には厚い信頼が寄せられています。また、CAD/CAMを駆使した商品企画には定評があり、展示会や、最近ではSNSによるユーザーとの交流から聞こえる声も大切にされた開発が行われています。昨今のコロナ禍で密にならない移動手段として自動二輪が再び注目を浴びており、若い頃にバイクに親しんだ世代のリターンライダーや若い世代の新たなファンも増えているとか。スマートフォンのナビゲーション機能や通信機能を活用して仲間たちとのツーリングを楽しむライダーも多く、同社でも最近では、スマートフォンホルダーを固定するための「マウントステーベース」を、選べる楽しさを追求した6色展開で発売しています。

代表者名/代表取締役 角野 豊
 本社/堺市堺区南清水町1-7-14
 TEL/072-229-2468
 設立/1994年
 資本金/2,000万円
 従業員数/20名
 事業内容/自動二輪車部品製造販売



ポッシュフェイス株式会社
 ホームページ

堺IPC PRESS

SAKAI CITY
INDUSTRIAL
PROMOTION CENTER

2021.7
VOL. 60

堺に活気を、ものづくり応援マガジン

堺のものづくりから生まれた逸品

SAKAIの傑作

選ぶ楽しさを届けたい
全19色のバーエンド

ポッシュフェイス株式会社

記事は次ページへ続きます▶▶

2021年6月末~9月末頃まで堺市産業振興
センター1F「さかいモノてらす」で展示予定